

読書記録シート

読書番号 18 氏名 有田 志子

記入年月日 2003 年 6 月 22 日

題目(書名・論文名) タスクスイッチングにおける音韻ループの役割

著者 邑本(おうもと)俊亮

出版社 第65回日本心理学大会 出版年 2001 ページ数 p445

書籍のありか 北海道教育大(函館校)

関連する箇所

言葉の説明；作動記憶とは、読み、計算、推論などの認知活動の遂行中に必要となる情報を一時的に保持するシステムである。音韻ループとは、読み、計算、言語獲得といった認知活動の遂行に貢献していることが広く認められている。

先行研究への指摘； Baddley (1 9 8 6) の作動記憶のモデルでは、受動的で補助的な情報保持機能を担うとされているが、最近では、行動のコントロールにも音韻ループが能動的に関わることもあることが指摘されている。

仮説；行動のコントロールにおける音韻ループの役割を調べる。2つの行動の切り替え課題において、音韻ループが何らかの影響を及ぼしているのではないか。

方法；構音抑制によって、音韻ループに干渉を加えてスイッチング課題をさせる群と具通にさせる群の、スイッチングにかかる反応時間を計算。

結果； スwitching課題の際に、前のプログラムの保持が必要とされる場合、音韻ループがその保持に関わることを示された。(数字を人間は、音、言語で記憶しているんだらう)

自分の意見

行動の抑制というのは、大げさで 前の内容を保持しておかなくてはいけないうきに

(この実験は数字) 音韻ループを使って保持しているらしいことがわかったようだ。

ってことは、文を読む際に使ってる、特に英語の文章は、ほとんど、この音韻ループを使っていると思われる。